

第7号 2010年7月13日号

# JICAガーナ・ソニー連携ニュースター ワールドカップ・パブリックビューイング

## はじめに

### 目次

はじめに

先週のエイズ予防啓発活動 & PV

6日@ンバナイリ村

7日@ンウォデュア村

先週末のエイズ予防啓発活動 & PV

10日@アジュマコ

11日@アゴナスウェドル

W杯の結果

## JICA & Sony Public Viewing in Ghana: Football against HIV & AIDS

1ヶ月以上にわたるアフリカ初のワールドカップが終わりました。アフリカへの注目が高まるなかで唯一予選を勝ち抜いたガーナへの注目度もさらにアップしましたね。無電化村も含む18コミュニティでのソニーとの連携によるエイズ予防啓発活動とパブリックビューイングは参加者総数18,000人、エイズ検査受検者総数3000人に及びました。

雨季にもかかわらず、雨が降ったのは屋内会場や移動日のみで一度も雨天中止することなくすべて実施でき、大成功でした。また、事故、怪我、病気もなく、制御可能な範囲の下痢くらいでした。これも関係者が日ごろ真面目に仕事の励んでいるおかげです。感動を届けて頂いたソニーの皆様、啓発イベントの企画・実施を行った長期・短期JOCVの皆様、頼りになる山口企画調査員、ガーナ事務所・本部関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。

(所長 山内)

## 先週のエイズ予防啓発活動 & PV

6日@ンバナイリ村

**準決勝(ウルグアイ vs オランダ)**

ノーザン州タマレからキノコハウスの道脇を通り未舗装の道路を走ること約30分、この日の会場地ノーザン州トロンクンブング郡ンバナイリ村に到着しました。天候は曇りで穏やかな天候でした。

電気と水道が全くないンバナイリ村で、巧みにダンバニ語を操り、地域の人から「ティユンバ」(日本語訳:愛される人)と素敵な名前を名付けられた菊池雅子隊員(21-1、感染症対策)と村のコミュニティボランティアがこの日のイベントの企画者です。

当日は、この日のために作曲作詞したダンバニ語のエイズ予防啓発ソングを地元の歌手と小学生が披露しました。その後マーチングバンドが約1時間村々を巡回して、イベントの広報活動を行いました。地元企画運営委員会のメンバーは色分けされた襷をつけ、総務担当、ごみ担当、プログラム担当、CT担当、コンドーム販売担当と組織編成がされていました。またマーチング担当の地元の方は、事前に村々を歩き、マーチングの所要時間と巡回先を事前に調査するという徹底ぶりには頭が下がりました。

障害物競争には地元の小学生6チームが対抗し、ガーナ、日本国旗にレッドリボンがデザインされた麻袋に足を入れ、跳躍リレーをしました。協力隊員やソニー(社)もリレーメンバーに入り、観客からは喝采と爆笑が起きると、和やかなリレーとなりました。

リレーの後は、村々対抗のサッカー大会です。以前40年前以上に、地域の村で対抗戦があり、審判のジャッジに議論を醸しだし、村々の関係が悪化したという因縁の対決が40年ぶりに復活しました。



木に貼られたプログラム





この地域では菊池隊員主体に事前に親善マッチが開催されており、当日は和気藹々とした雰囲気の中で終始穏やかなサッカー試合でした。またハーフタイムにはドラマグループによる HIV&AIDS 差別軽減をテーマにした劇がありました。

この日の最大集客数はサッカー試合中の 1784 名でした。HIV 抗体検査では、入口と出口に暗幕が張られ、出口と入口が分かれておりプライバシーの保護の視点も盛り込まれていました。193 名(内訳:男性 83 名、女性 110 名)が受検し 20 代の女性 1 名に陽性反応がありました。

菊池隊員が現地の村人達に HIV に関するインタビュー撮影を事前に行い、編集したものをPVのハーフタイム中に上映するなど、工夫がされていました。また当日は、菊池隊員のホームステイ先のガーナ人家族が、村々の村長に無料で手料理を振舞う等、村人が主体で村人のためのイベントを村人皆でサポートしていました。

イベント実施後の菊池隊員からは「村人、特にボランティアとして日々村に貢献している若者にとって、今回のイベントはすごくいい経験となりました。とっても楽しかったです！」とのコメントがあり、終始現地語でボランティア達に指示を出し、気さくにコミュニティーの人々と団欒する「ティコンバ」菊池隊員と村人達の今後の活躍が期待されます。

(フィールド調整員 南口)

### 7日@ンウォドゥア村



打ち合わせ中の菊池隊員



お尻をぶつけ合いながら踊る様子



啓発劇

### 準決勝(スペイン vs ドイツ)

タマレから 40 分、幹線道路からダートを 20 分くらい歩いてンウォドゥア村に到着しました。小学校と中学校 3 教室ずつのこじんまりとした学校の校庭が今日の会場です。この村でホームステイ中の新隊員の相川さん(22-1 村落開発普及員)も参加しました。昨日イベントに引き続き菊池隊員が中心となって短期の荒川隊員と準備して来ました。連日の疲れも見せずに菊池隊員は会場のあちこちを廻り指示を出しています。朝の涼しいうちにブラスバンドのマーチングから始まりました。信じられないことに予定の時間より 1 時間以上前倒してプログラムが進んで行きました。マーチングのあとコンドーム販売や 4 つの教室を使ってプライバシーがきちんと守られた状態で HIV 抗体検査とカウンセリングが始まりました。

次は障害物競走です。コメ袋に入り 20m くらい飛び跳ねて進んだあと、小麦粉の中のアメを口でくわえて、20mダッシュ。1 着になった人はエイズに関するクイズに答えることができ、不正解の場合は 2 着の人が答えることができます。正解者した人は賞品がもらえて粉で白くなった顔に満面の笑みをうかべていました。お昼休みをはさんで太鼓の音が聞こえてきました。伝統ゴンゴンチームの太鼓に合わせたダンスの熱演に会場からも続々と参加者が列を作り、踊りながら順番にお尻をぶつけあっていました。菊池・藤松・小西隊員も参加して跳ね飛ばされていました。(写真左)

いよいよ予選を勝ち残ってきた地元チームとお隣チームのサッカー大会です。約 1000 人の人が観戦していました。地元チームのほとんどが靴を履いているのに対しお隣チームははだしの選手がほとんどです。ユニフォームはそろえることができたもののチームにサッカーボールがないためによその村に借りなくてはならず十分な練習はできなかったそうです。前半からホームチームが優勢で何度かチャンスはありますが得点できないまま後半に入ります。





コンドーム販売所

## 10日@アジュマコ



障害物競走



トロフィーの贈呈



啓発劇

暑いなか走り回り両チームとも疲れがみえてきた終了間際にお隣チームが得点しました。このまま試合終了となり応援団と一緒に大喜びでグラウンドを走り回っていました。優勝チームには折り紙で作ったメダルが生徒から授与されるとともに、ソニーの中西さんから高耐久性ボールが贈呈されました。キャプテンは「これでいつでも練習ができる。もっと強くなれる」と喜んでいました。

スペイン対ドイツはどちらかというとポアテン兄弟の弟がいるドイツを応援しているようです。暗くなるにつれてスクリーンがくっきり、大きく見えてきます。約 1000 人が観戦しています。前半は両チームチャンスを活かさず得点なし。ハーフタイムが過ぎるとよその村から来た人たちをピストン輸送して送り届けるためのバスが発車するはずでしたが、運転手が試合をみたいため出発しません。満員バス屋根に人が乗ったバスは結局試合終了まで出ませんでした。後半スペインが得点しそのままゲームセット。決勝はオランダvsスペインの欧州対決となりました。スクリーンの火が消えると空には満点の星空。きょうは七夕でした。今回の連携イベントの成功と関係者の健康と安全を祈念して帰途に着きました。

今回は 184 名が検査を受けて 52 歳男性 1 名が陽性とわかりました。イスラムの村であるため、奥さんは複数いるはずですが。ステイタスを知ってもらい、対策を講じることで更なる感染を防ぐことにつながります。今後のフォローはガーナヘルスサービスがしっかり行うこととなります。

(所長 山内)

## 先週末のエイズ予防啓発活動 & PV

### 3位決定戦(ウルグアイ vs ドイツ)

2010年7月10日(土)、残すところあと2回となったパブリック・ビューイング(PV)がセントラル州アジュマコの小学校校庭で行われました。今回は、徳留久美隊員(21-1、看護師)を中心とした、長期、短期の隊員の皆さんによって企画、運営されました。

PVに先立ち、地元高校4校によるサッカートーナメント戦や各種イベントが行われました。サッカー決勝戦のハーフタイムは、障害物競走と地元小学生によるダンスです。障害物競走は、各校代表による二人三脚・アメ食い・風船わり・HIV/AIDSクイズを順に行うもので、初体験の二人三脚に悪戦苦闘しながら、顔を真っ白にして小麦粉の入ったボールの中からアメを探し出す生徒たちの様子に、観客からの声援と笑いで大盛り上がりです。また、この日のために練習したという、地元小学生による歌とダンスは、会場を和やかにしてくれました。

高校生サッカー試合では、トーナメントを制した高校へ、トロフィーと賞品が贈呈されました。さすがワールドカップ出場国だけあり、どの試合もハイレベルで、生徒たちの真剣な姿勢に心動かされるものがありました。

表彰式のあと、地元高校によるHIVを題材とした演劇が始まりました。劇はチュイ語で行われ、会場に集まっていた子供たちからも笑いがおこるなど、白熱した演技で盛り上がり、演技者、観客ともに楽しめるものでした。

午後6時半、いよいよワールドカップ3位決定戦が始まりました。観客数は約900名。あいにくの曇り空のため、少々観客の出足が遅かったものの、この日の試合はドイツ対ウルグアイ。





会場はほぼ満場一致でドイツの応援一色。それもそのはず、ガーナ人の父を持つイエローム・ボアテック選手が出演しており、観客も応援に熱が入ります。試合はドイツの先制で始まりましたが、ウルグアイもすぐに同点ゴールを決め、試合は2-2の平行線のまま、延長戦かと思われた後半37分、ドイツの決勝ゴールが決まり、結果は3-2でドイツの3位が決定しました。

今回もイベント開始の午前10時からCT(カウンセリングテスト)が実施され、100名(男性56名、女性44名)が受診しました(陽性者はゼロ)。CTは主にローカル言語で行われ、HIV/AIDSについての知識の確認のあと、抗体検査が行われ、結果に関わらず、今後の対処方法についてもカウンセラーによる指導・助言が行われます。

なかには、不安そうな面持ちの人もいましたが、一人一人に丁寧なカウンセリングがされているとの印象を受けました。カウンセラーの一人は、2年のコースを終えたコミュニティーヘルスナースで現在は4つのコミュニティーを担当。「HIV/AIDSについての正しい知識を伝えて、コミュニティーの健康を守っていきたい。」と語ってくれました。

(OJT 職員 苗村)

## 12日@アゴナスエドル



洪水による被害

## 決勝(スペイン vs オランダ)

ワールドカップ決勝、約1ヶ月に渡り開催されたPVも本日が最終日です。昨日の会場アジュマコから車で約2時間、雨季のせいか背のとても高い草木の間を走る細い道を抜けた先に町がありました。ここアゴナスエドルは2週間前の洪水により町も人も甚大な被害を受けたため急遽会場の変更を余儀なくされました。期待の大きい決勝戦を間近に控えてこのような緊急事態が発生したため、今回中心となって企画と準備を進めてきた村上佳代隊員(20年度4次隊・保健師)は当日まで現地病院スタッフとの調整など、大変な苦労を重ねてきました。近隣の長期隊員や担当の回を終えた短期隊員も多数応援にかけつけ、朝から宣伝や会場セッティングに精を出していました。

当初は、スタジアムにてサッカーゲームからPVまで行う予定でしたが洪水の影響によりスタジアムへ繋がる橋が崩壊したため、サッカーゲームを高校のグラウンドで、エイズ啓発活動とPVをトロトロステーションにて行うこととなりました。12時開始予定が、参加するサッカーチームの到着が遅れたり試合で使用するボールを積んだ車両が遅れたりしたため、2時間遅れでの開始です。

サッカーゲームの後、会場をトロトロステーションに移しHIV啓発イベントの開始です。開会式に続き、地元高校生によるドラマ、椅子取りゲームがありました。昨日、今日のセントラルリージュレーで開催されるイベントに向けて活動された短期派遣の青木隊員は、「初めは地元の人々が全く演技できなくてどうなるかと思った。」と言っていました。努力の甲斐があり堂々とした演技でした。

啓発イベントはまだまだ続きます。近隣の村の小学生による啓発ドラマには村の首長さんも語り部として出演。地元高校生対抗のクイズ大会では正解が続出し、その度アイドルのように黄色い歓声を浴びていました。各参加校には山内所長から記念品が贈呈され、この日のHIV啓発イベントが終了しました。HIV抗体検査会場においても、常に10~20人ほどが小さな待合室でHIVについての話を聞いており、高校生が多いことが印象的でした。この日148人が受検し、内3名が陽性反応でした。



マーチング



啓発劇

HIV 啓発イベントが大盛況で進行する傍ら、PV 機材の設置が始まりました。今まで約 1 ヶ月に渡り行われた PV の最終日、これまでずっとソニーチームのお手伝いをしてきたドライバーや DSTV のスタッフは PV 機材設置に関し熟練してきており、順調かつスピーディーに準備が進みます。この日はあいにくの天候のため、後方をガードレール、側方を 4 駆車に固定する形でスクリーンを設置し、風に煽られての転倒を予防しました。



PV には大人から子供までなんと約 1300 人が集結、直前まで必死で宣伝してくれた隊員や地元関係者の方々の努力が実りました。地元協力者、山内所長、ソニーCSR 部富田部長の挨拶の後、PV が開始されました。ハーフタイムには HIV 啓発ソングと合わせて現地有名歌手がライブを行い、人々の熱気が溢れかえていました。試合が硬直し延長戦に突入しても椅子が撤収され立ち見になっても人々は全く動きません。ついにオランダがゴールしたとき興奮した子供たちが水をまきあげ、「機材の防水カバーを外していたため肝を冷やした。」(ソニー中西さん談)そうですが、地元警察によりすぐに制止され無事に終了しました。

この日に向けて関係者の調整に尽力してきた村上隊員は疲労困憊だったと思いますが、最後に感謝の拍手を送られた時には、すこしホッとしたような笑みを浮かべていたのが印象的でした。隊員の皆さん、関係者の皆さん、本当にお疲れ様でした。

(OJT 職員 福原)

## W 杯結果

[6月]

13日(日) Akosombo	ガーナ vs セルビア [1-0]
15日(火) Apeguso	ブラジル vs 北朝鮮 [2-1]
18日(金) Ayenyah	イングランド vs アルジェリア [0-0]
19日(土) Koforidua Asikasu	ガーナ vs オーストラリア [1-1] カメルーン vs デンマーク [1-2]
21日(月) Kusi	スペイン vs ホンデュラス
23日(水) Atuobikrom	ガーナ vs ドイツ [0-1]
24日(木) Akoase	日本 vs デンマーク [3-1]
26日(土) Huntado	ガーナ vs 米国 [2-1]
27日(日) Nkawie	イングランド vs ドイツ [1-4]
29日(火) Betiako	スペイン vs ポルトガル [1-0]

[7月]

2日(金) Moglaa	準々決勝(ガーナ vs ウルグアイ) [1-1](2-4)
3日(土) Tamale Bunglumg	準々決勝(ドイツ vs アルゼンチン) [4-1] 準々決勝(パラグアイ vs スペイン) [0-1]
6日(火) Mbanayii	準決勝(ウルグアイ vs オランダ) [2-3]
7日(水) Nwodua	準決勝(スペイン vs ドイツ) [1-0]
10日(土) Ajumako	3位決定戦(ウルグアイ vs ドイツ) [2-3]
11日(日) Agona Swedru	決勝 (スペイン vs オランダ) [1-0]

## 編集後記

2010年W杯が終わり、JICA ガーナ・ソニー連携ニュースレターもこれで最後です。今回は4月に入構したばかりの新人2人にも執筆いただき、試合同様ニュースレターも盛り上がりました！

個人的に、経理の傍らニュースレターを取り纏めるのは大変でしたが、貴重な経験をさせていただきました。このことはきっと4年後に思い出すことでしょう。

(企画調査員(経理) 角崎)

